

## セット内容

本体



ブローアー



ホース (50m巻き)



ホースジョイントニップル



ホースを切った場合はホースジョイントニップル  
を使い2本をジョイントさせてお使いください。

## 1) 施工機設置

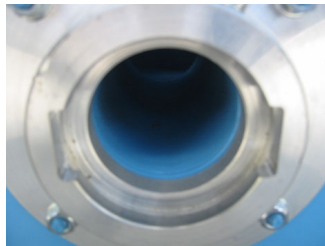
施工機は、**地面の上に直接置かないで下さい**。電圧不足の原因となり動きません。必ず絶縁の物(木など)の上に置いて下さい。

**電源は30A以上です。それ以下ですと本体、モーターに負荷がかかり故障の原因になります。**

## 2) ブローアーを施工機にセットする。

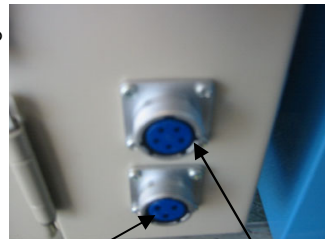
ブローアーの砲金の2ヶ所の突起を、施工機の口金の2ヶ所の窪みに合わせ差込み、約15度程度回しセットします。

アダプターコンセントを、電気ボックス横の2ヶ所ある差込みの下(3つ穴)に挿入し、カバーを回し、しっかりと固定させます。



## 3) 遠方スイッチを施工機にセットする。

アダプターコンセントを、電気ボックス横の2ヶ所ある差込みの上(5つ穴)に挿入し、カバーを回し、しっかりと固定させます。



ブローアー用

遠方スイッチ用

## 4) 施工機本体のコンセント

施工機本体のコンセントを接続する場合、特に延長ドラムを使用する時は、直接仮設電気から接続して下さい。また、延長ドラムの巻いてあるコードは、**全部引き伸ばして使用する様にして下さい**。巻いたまま使用すると延長ドラムが熱を持ちコードが溶けたり、電気の容量が落ちたりして、施工機に支障がでる場合があります。**電源は30A以上です。それ以下ですと本体、モーターに負荷がかかり故障の原因になります。**

## 5) ホースを施工機にセットする。

ホースをブローアーのジョイントにセットします。**しっかりと繋がないと施工中はずれる事があります。紐などを使い、しっかりとブローアーと固定させてもよい。**

## 6) エアーバルブの調整

エアーバルブの開閉により、材料の増減ができます。エアーバルブを開けていくと、材料は少なくなります。勢いは増していきます。エアーバルブを閉めていくと、材料は多くなります。勢いは無くなっていきます。

エアーバルブを全部閉めてしまうと、材料がホースの中で詰まります。また材料などが**エアーバルブの上に落ちた時も、同じ様に詰りの原因となります。**常に材料を供給する人は、気をつけて下さい。

- \*バルブの調整は壁を施工する時と、小屋裏を施工する時と変わります。壁施工の時は、ホースの長さも関係しますが、約半分程度バルブを開いて下さい。小屋裏施工の時は、これもホースの長さも関係しますが、通常約4分の1程度バルブを開いて施工して下さい。筒先を持っている人の指示に従って下さい。



## 7) 非常停止ボタン

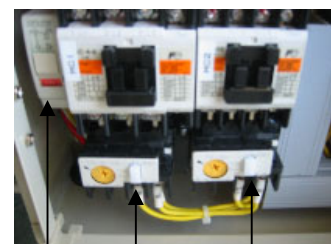
施工中何らかのトラブルが発生した場合、電気ボックスの横に付いている、**赤いボタン**を押し停止させます。解除する時は、**矢印方向に回します。**



非常停止ボタン

## 8) リセットボタン

施工中何らかのトラブルにより、ブレーカーが作動に停止した場合、その**原因を解消した後、施工機を作動させる時は、電気ボックス内のマグネットリレー下部にあるリセットボタンを、2~3回押してから施工機を作動させます。**リセットボタンは2ヶ所あります。MC1はブロアー用、MC2はアジテーター用となります。両方押して下さい。



リセットボタン

ブレーカー

## 9) タイマーリレー

電気ボックス内の右端のダイヤルがタイマーリレーです。TM1はスタート時用、TM2は停止時用。TM1のダイヤルを5に合わせると、最初にブロアーが作動し、5秒後にアジテーターが作動します。

TM2のダイヤルを5に合わせると、最初にアジテーターが停止し、5秒後に、ブロアーが停止します。

TM1, TM2共に最大30秒まで調整できます。

- \*タイマーリレーは、ホースの中のセルロースを出し切りたい時に役に立ちます。  
(通常5秒程度で、ホースの中のセルロースは出ます)



TM1

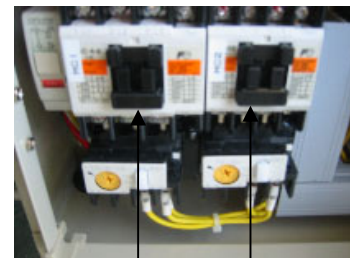
TM2

## <注意事項>

○トラブルが発生し、**ホッパーの中に手などを入れ、作業しなければならない時は、必ず施工機本体のコンセントを抜いてから、作業を行って下さい。**筒先を持って作業している人が、何もしらず遠方スイッチで作動させてしまうと、**大変な事故となる原因になります。**

○埃が現場で舞上がるという、**ホッパーにダンボールや、板などで蓋をしないで下さい。**ホースの詰りの**原因になります。**どうしても蓋をしたい場合は、どこか隅に少しでも隙間をとって下さい。

○遠方スイッチを押しても動かない場合は、**入のボタンを4～5秒程度押しつづけて下さい、作動する時があります。この現象は電気の容量が少ない時に起こります。**マグネットリレーの磁石が、電気の容量が少ない為圧着しにくいのが原因(カタカタと音がします)です。その為4～5秒程度入を押しつづけると、磁石がくつき作動する場合があります。

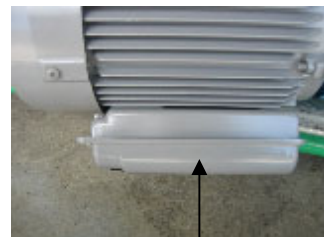


マグネットリレー

○吹き込み作業が終わりましたら、**エアーコンプレッサー等で本体に残っているセルロースの材料をきれいに出してください。**本体の電気ボックスの中、ホッパーの中、ファンベルトの中、ブロアーの中の**セルロースもきれいに出してください。水分で固まってしまう、故障の原因になります。**

○施工機が作動しない時のチェック事項

- ・施工機本体の、コンセントが接電しているか。
- ・**電気ボックスの中のブレーカーは、ONになっているか。**
- ・非常停止ボタンが解除になっているか。
- ・**マグネットリレーのリセットボタンを2～3回押してみる。**
- ・施工機の置いてある場所は、放電しにくい所か確認する。**(施工機を放電しにくい場所か、絶縁の物の(施工機を、放電しにくい場所に移動するか、絶縁の物など下にひく)**
- ・テスターなどで、電流が流れてきているか、電気ボックスを調べる。(断線などが原因)



コンデンサ

○アジテーター用モーターの、下部に付いている**コンデンサ部分に、衝撃を与えないで下さい。**万一衝撃などを与え、トラブルが発生した時はほぼモーター取替えとなります。十分注意して下さい。

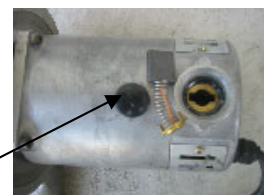
#### ブロアー注意事項

○ブロアー本体を、むやみに分解し、ドライバーなどで埃等をとりぞいたりすると、羽(アルミ製)が曲がったり、バランスがくるとりし、故障や不具合が生じたりします。**メーカーなどでオーバーフローするようにしましょう。**また、オーバーフローの時期については、使用回数や、ブロアーの負担のかけかた(負担が大きいのは壁施工の時)により変わります。目安として吐出量の変化、ブロアーからの異音、**ブロアーを止めた時の羽のとまる時間(約4秒以上惰性で回る)が早いなどの症状が出た時は注意して下さい。**



羽

○カーボンは2ヶ所使用しています。定期的に(1回/月)点検してください。カーボンの取り替え時期は、**残り5mm程度を目安とし、交換して下さい。**取替えは、**2ヶ所共同時に替えて下さい。**カーボンの減りが、極端に早くなった時は異常です。メーカー修理が必要です。また、**カーボンの場所は埃などが入りやすい為、エアーなどで掃除なども、定期的に行って下さい。**



カーボンキャップ

○本体が詰まってしまったら

まず、ホースをブロアーから外し、ブロアーを本体から外します**カーボンホースの先端部と手元部を付け替えてブロアーで風を送ります。**(マグネットリレーのMC1ボタンを押す)  
それでも出てこないようなら、コンセントを抜いて、ホースを外し、ホースを振って材料を出します。本体とブロアーをはずし、材料が詰まっていないかチェックします。本体のホッパーの中の材料を全部出します。これだけのことをすれば基本的に負荷がかかっていることになりませんので、この状態で電源を入れマシーンを動かします。十分動くことを確認してから、少しずつほぐしながら、材料を入れていきます。

